



読書活動支援者育成事業研修会

目的：学校や図書館で活躍する読書ボランティアの専門的な知識や技術の向上を図る。

実施日：令和元年10月6日（日）

場所：福島県立図書館

参加者：37名

事例発表及び演習①

10:30～11:10

「『子どもの心の根っこを育てる 読み聞かせ』をめざして」

発表者：お話しボランティア イクタン号GO（本宮市）

塩田 月子氏

1 活動の動機

- 我が子への読み聞かせを通して、次第に読み聞かせに関心を持つようになっていった。子どもたちの成長後も読み聞かせ活動に携わりたいと思うようになり、「イクタン号GO」の活動に参加するようになった。

2 活動の概要

- 「イクタン号GO」は、旧白沢村にある「しらさわ夢図書館」で行われた図書館ボランティア養成講座のメンバーにより、平成9年11月に設立された。同年、図書館でのおはなし会がスタートする。平成11年より村内の保育所・幼稚園での読み聞かせ活動を、平成14年からは、小学校での読み聞かせ活動を開始。平成19年の市町村合併により本宮市となってからは、本宮市内での活動を展開するようになった。
- 現在の会員は23名である。現在は、「あかちゃん・妊婦さんへのおはなし会」「ドリームおはなし会（3才児～小学校低学年向け）」「特別おはなし会（学校の長期休業中に行う）」を行っている。
- 月1回の定例会で翌月のおはなし会の担当を決めている。選書は図書館司書にお願いしている。
- 読み聞かせやお話会の後、毎回図書館で反省会を開いている。図書館の指導や支援が活動を支えている。



3 読み聞かせについて

- 正しく読むことから始まったが、徐々に子どもの表情が見えるようになってきたことで読みの幅が広まってきた。子どもの表情にお話を聞いた余韻が残っているのを感じるとき、自分の活動の意義を感じる。
- 子どもの「大切な時間」を使っているという気持ちで、しっかり準備して臨んでいる。「子どもから学ぶ」「研修から学ぶ」ということを大切にしている。
- これからも、子どもの心の栄養となる読み聞かせをめざし、子どもの心の根っこを育てる活動を続けていきたい。

4 読み聞かせ実演

- ① 「おじいちゃんのごくらくごくらく」
- ② 「からすたろう」

【参加者からの声】

- 熱心な活動にふれて、とても刺激になりました。私もできる範囲でまたがんばろうと思いました。ありがとうございました。

1 活動の概要

- ・ 会津坂下中央公民館の依頼により、平成7年に発足した。町のキャラクター（バンビィ君）のTシャツを着て活動している。現在は10名が在籍している。町内の小・中学校、幼稚園・保育園で読み聞かせ活動を行っている。昨年度の活動回数は123回である。
- ・ 中央公民館の図書室で第3土曜日に定例会を開き、お話を聞いている。「大人のための読み聞かせ」という試みも行っている。また、子育てふれあい交流センターでも読み聞かせを行っている。
- ・ 1~3月は積雪のため出向はせず勉強会をしている。読み聞かせの声をカセットに録音して聞き合い、読み方などのいいところを探すようにしている。

2 読み聞かせ

- ・ 2歳児（保育所）、3~5歳児（幼稚園）に向けて、仕掛け絵本、パネルシアター等の読み聞かせをしている。〈選書の例：「ノントンのおはよう」〉
- ・ 小学生は人数が多く、並ぶのに時間がかかるが静かに聞いてくれる。大型絵本を活用している。〈選書の例：「そらめ君のベッド」「赤いくつ」〉
- ・ 中学生の読み聞かせはなかなか時間がとれず、月に一回昼休みに、自由参加で開催している。放送でPRしてもらったら30人ほど参加してくれた。

〈選書の例：「にじいろのさかな」〉

- ・ 高校生に対しては、「朝読」の時間で正味8分程度の読み聞かせをしている。子どもたちは「懐かしい」と言ってよく聞いてくれる。必要に応じて大型絵本も使うが、高校生が進んで準備などを手伝ってくれる。先生方からは、「集中力がついてきたので、続けていきたい」という声が上がっている。



〈選書例：「いなむらの火」（大型紙芝居）「蜘蛛の糸」「半日村」等〉

- ・ 老人介護施設や学童保育等でも読み聞かせを行っている。
- ・ 県立博物館でも、読み聞かせや紙芝居、語り等を行っている。
- ・ 平成30年度に文部科学大臣表彰を受けた。

3 高校生との活動

- ・ 鶴見氏が司書として勤務している会津農林高校において、図書委員会の高校生に読み聞かせの仕方を指導している。生徒は、本の持ち方や滑舌、間の取り方が少しずつうまくできるようになった。
- ・ 高校生は、近隣の介護施設での読み聞かせを行っている。お年寄りに「若い人に読んでもらうのはいいなあ。」「また来てくなんしょ」と。声をかけられることが、高校生にとっての自己有用感につながり、「新たな自分」を発見することにつながっている。
- ・ 保育所、幼稚園での読み聞かせでは、子どもたちと握手したり、「また来てね」といわれたりすることで、「将来幼児教育の道に進みたい」という生徒も出てきた。

4 読み聞かせ実演

- ・ パネル絵本（6面パネル）「桃太郎」

【参加者からの声】

- ・ 紙芝居（パネル絵本）に感動しました。「ばんげ読み聞かせの会」が行っている活動を、県内各地に広めてほしいです。

「子どもに幸せな時間を届けるための 読み聞かせの極意」

講義・演習

13:00 ~ 15:00

講師：絵本専門士 J P I C 読書アドバイザー

一般社団法人 子どもの読書サポート アシード

加藤 美穂子 氏

1 はじめに

- ・ 図書館ボランティアとして10年間活動後、ボランティアを支援する「やまがた絵本クラブ」を設立し、10年間勉強会などの活動を行った。その後、これまでの学びを読書活動推進のために生かそうと「アシード」を設立した。今年で活動を始めてから35年目である。
- ・ 福島県とは、矢祭町の「手作り絵本コンテスト」や、那須甲子青少年自然の家での「読育キャンプ」等で関わっている。



2 心構え

- ・ 心構えは、技術や選書以上に大事である。
- ・ 読み聞かせをしている方は「選書」で悩むことが多いが、一番大事なものは、「子どもの気持ちに寄り添う」ことである。選書は子どもに任せ、読み手が「好みでない」本でも、子どもたちが読んでほしいと思っている本なら読んであげる度量がほしい。
- ・ 読み聞かせは「幸せな時間を届ける」時間にしたい。子どもにとっても、読み聞かせをするボランティアにとっても充実の時間になるように、双方の関係はWin-Winであるのがよい。

3 会場設定

- ・ なるべく小さな集団にし、座らせる。
- ・ 絵本の画面がキラキラ光って見えなくなることがあるので、採光に留意する。

4 導入

- ・ しっかり表紙を見せて、きちんとタイトルを伝える。幼児には作者名を言わなくてよい。
- ・ 静かにならないうちは始めない。
(「みんな、〇〇って知ってる？」などと話しかけると、ざわついてしまうので注意。)

5 読み聞かせの基本技術

① 絵がよく見えるように

- ・ 座り方と本の持ちから、ページのめくり方、大型絵本の持ち方について

② 声がよく聞こえるように

- ・ 届く声を出すには、姿勢が重要
- ・ 滑舌を良くする

③ 理解しやすいように

- ・ 間の取り方に留意
- ・ 話の流れに沿って読む 等

6 集中してもらうための工夫

- ・ 複数のお話を読む際には、取り合わせと順序を考える。

7 終わり方

- ・ 読み終えた後に本のタイトルを言い、子どもに「聞いてくれてありがとう」とお礼を言う。
- ・ 感想を求めない。

8 ワーク

- ・ 「読み聞かせ合評シート」を使う。
- ・ 二人組になり、読み聞かせをし合い、個々の読みぐせや難点を気づかせてもらう。



9 生後54日目の赤ちゃん（動画）への読み聞かせ

- ・ 生後半年ぐらいまでの赤ちゃんは、五感で感じた刺激を無条件で取り込むため、読み聞かせの開始は早いほうがいい。
- ・ 赤ちゃんへの読み聞かせのルールは、絵をじっと見せてから言葉を伝えることである。
- ・ 赤ちゃんへの言葉のかけ方は、以下の通りである。
ア 赤ちゃんの名前を呼び
イ 行動と見ているものを言葉で伝える
ウ 気持ちを言葉で伝える
⇒気持ちとビジュアル、言葉とビジュアル、言葉と気持ちが一致する。
⇒読み聞かせができるようになる。
- ・ じっと見て、じっと聞くことで、前頭葉前野脳が鍛えられ、自ら考える子に育つ。
- ・ 読み聞かせは本だけでなく、人、事象、自然、あらゆるものから学んでいく能力を育てる。



10 今日の演習で（合評シート記述の傾向）多かった指摘

- ・ 始め方、終わり方が速い。ゆったりと初めて、余韻を残しゆったり終わることが大切。
- ・ 本の持ち方がぐらつく。ぐらつかないようにする。
- ・ 本が斜めに傾いたり、倒れたりしないようにする。
- ・ 会話と地の文の間をとる。
- ・ それぞれの声質やキャラに合った本は、他の人からの指摘が的確である。声の幅の広い人は適した本の守備範囲が広い。

11 選書の仕方

- ① 子どもが望む本
 - ② 子どもたちを幸せにする本
- ・ 今、幼稚園の子に人気なのは、TVの影響で「おしりたんてい」。
 - ・ 選書に迷ったら「新刊」を出す。今の時代に生きている子どもの気持ちを救う割合が高い。
 - ・ 古い本は「はっきり」「くっきり」でなく、ビジュアルも古くさいので、今の子どもたちに受け入れられにくい。
 - ・ 同じ物語（絵本）でも、出版されたのが30年前のものと、今のものを比べてみると、今の本は簡潔である。絵でわかるところは文が削られている。1990年以降に出版された本の内容は、今の子どもたちの心を満たす割合が高い。



12 おわりに

- ・ 子どもの立場に立ち、子どもに寄り添いながら読み聞かせ活動を行ってほしい。
- ・ 時代と子どもの進化に合わせ、喜ばれる活動ができるよう、自ら学習する機会を増やしてほしい。

【参加者からの声】

- ・ 時代が変わると子どもが喜ぶものが変化することにびっくりしました。子どものニーズをもっと把握し、子どもにとって楽しく、自分でも楽しめるおはなし会にしていきたいと思います。
- ・ 「今の絵本は、今の子どもたちの心を救う」ということが印象に残りました。
- ・ 加藤先生の講座はとても勉強になり、これからの活動の参考にしたいと思いました。昔の絵本が今は通用しないということには、「目からウロコ」でした。また、このような研修会がありましたら、参加したいと思います。
- ・ 赤ちゃんへの読み聞かせの効果を具体的に学べてよかったです。赤ちゃんを対象のおはなし会での選書に役立てたいと思いました。
- ・ 技術や方法が学べて、初心者の私には大変参考になりました。今後生かしていきます。